

2020年7月1日

東京電力ホールディングス株式会社

第870回審査会合における指摘事項

<建物・構築物における地震応答解析モデルの既工認からの変更点>

- (1) 既工認で有していた設計上の保守性に対して、より精緻化した評価を実施する今回工認評価の有する設計上の保守性について、地震応答解析における保守性、応力解析における保守性及び許容限界の設定における保守性の観点から説明すること。
- (2) 補助壁が負担するせん断力について床スラブを介して下層へ適切に伝達できているのか等、補助壁を解析モデルに見込むことの合理性について説明すること。

<建物・構築物の応力解析における弾塑性解析の採用>

- (3) 床スラブを弾性としてモデル化する根拠を説明すること。また、コンクリート強度のばらつきや補助壁の考慮の有無等がRCCVへの拘束効果、耐震評価結果に与える影響について説明すること。
- (4) 弾塑性解析における応力平均化の採用に関して、面外せん断力だけでなく、周辺領域を含めた他の応力の分布状況、配筋の状況を示した上で、応力平均化の合理性及び適用範囲について説明すること。

以上